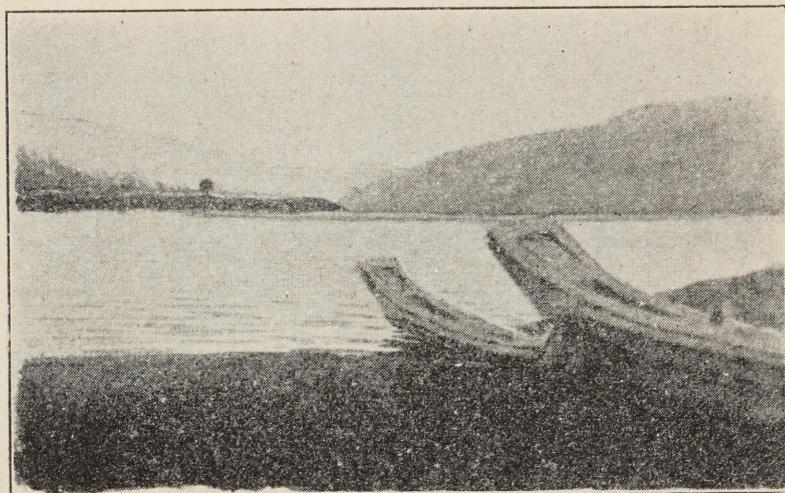


南無妙法蓮陀佛、混ぜ返へしつゝ無しサ、ハ、ハ、ハ、イヤ實際
ですよ、それから色を塗るにも、一寸見れば、アレは何の色、之
は何と何の色ツと直ぐに調合して畫くもの出来るようになる、

畫家の頭腦は反射鏡で、天然が反射して繪
具箱へと行く、其處へ筆が行つて其通りの
色を紙面へ塗る、其間に猶豫は無い、グズ
グズと彼の色でも無い、此色でも實際に違
うなんて、時々刻々に變化し去る自然を前
に置いて、繪具の相談とは餘り吞氣でサ、
ソーです、スケッチは色の關係調子のスケ
ッチです、遠山のプリュー、田畝のグリー
ンを研究する以上に目標を置くのです、色
がナマだと云ふのは、遠山のプリューを只
プリューとしてのみ研究し、他との關係調
子を研究しないから起るのですナ、自然の
色は一物のみを別にして研究することは出
來ません、皆他の色との均衡に依るのです、
マー例へば君方がピヤノを學べれます、彈
いて居る間に、フラットに弾くべき音を一
寸間違ひて並に弾く、シマツタと思つてフ
ラットに弾き直しても、耳に感じる音は全くのフラットでは無
いように覺える、之れは耳には、其フラットの音一つのみが感
じるのでは無くして、他の音との調和が感じるからであります、



海 老 名 研 二 寄

色の調子は恰かも之れと均しいもんです、大抵お分りになりま
したか、之れは筋道ですが、ナニ直きにお分りです、マー理屈
は理屈として暫く棚へ預けて置いても宜いですから、實際に付

いて特別的大研究をやつて御覽なさい、エ
ーエ、道理の方は自然に後から分かつて來
ます、マー、能いでしよう、ユツクリ爲さい、
ソーですか、それでは又お出で下さい、私も
其内御一所に出かけませう、サヨナラ、失
禮、

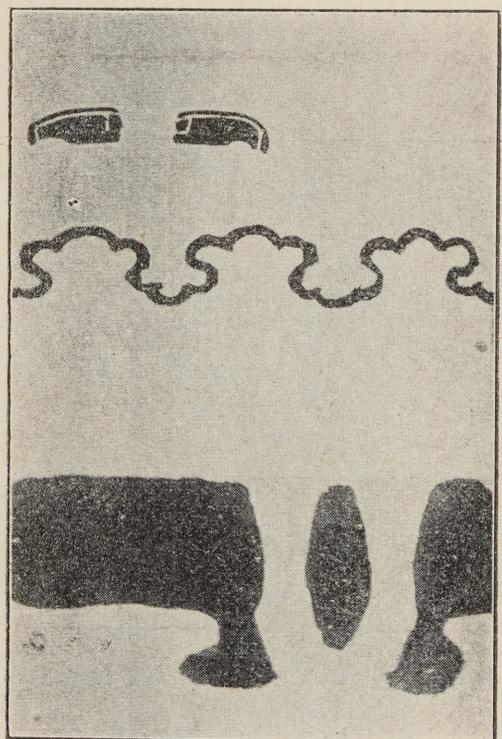
日本の秋 (一)

アルフレッドパーソンズ著

自分が日本に着いた時は、雨勝な天気ばか
りで、毎日それに不足をいうやうな春の頃
で、それから夏の濕氣深い陰鬱な日を暮ら
して、今に秋となると一週々々に純爛たる
日光は増して空氣は清潔になり、聖密其兒
祭(九月廿九日)から基督降誕祭(十二月二
十五日)の間は殆ど雨を見ない位だといふ
友人の誓約に慰められて居つた。友人の話も、氣候の事で、例
外もあるうし、また或は嬉しがらせの話であらうかも知れな
い、十、十一月となれば、今よりは快晴な天氣もあらうけれど、

戸外で寫生の出来ない日は一週に一二日はあらう。で友人は、また楓葉の燦然たるを説き、丘陵や巖石の多い谿谷は錦繡綾羅を以て飾られて、雅客の渴仰も全くこれによりて充たされると語つたが、誰あつて、かの稻田の畔を深紅色の總て飾つて居る百合の花（彼岸花の美）を説くものがない。自分は此花を初め東海道の可なりな町の濱松で見た。自分がこゝに著いたのは、

中央小週遊の後で九月の十六日であつた、此百合の花の純爛たる色彩が酷く意にいつたので、これを急で寫生することゝした。其急ぐといふ譯は旅行券の期限がきれるのと、此花がそう何處にもあるまいといふ懸念があつたのである。後で考へると、何もそんなに急いで寫す必要はなかつた、實に此花は到る處にあるので濱松は自分が見た他の日本の町とは全く趣きを異にして居る。家屋は二階が突出て屋根は廣く垂掛つて居る。重なる商業は玩弄物らしい。大概の店は大鼓や風。人形や其附屬品、日本人がその愛兒に與へて喜ぶ千差萬別の玩弄物で充されて居るのである。自分がある一小庭園を過つた時に、實に殘忍を極めたらしいものを見た。それは幾十個となく、宛ら死んで居るかのやうに蒼白く灰色の小兒の首を棒の先へ突刺して、地



第二十八回 奇拔

面へ立並べてあるのだ。がやゝ近付いて見ると、秘密が明白となつた。其首は紙製の人形ので、仕上塗をする前に、日向に干して置いたのであつた。隣の村がまたをかしい、何の家もく風禦の爲に屋根に紫杉すぎの丸太をぶつちがいにして載せてある。通路は厚く葺いた屋根が兩方から被ぶさつて居るので、緑の城壁の間を行くやうな意がする。明放してあるので皆一目に見え

る。中庭や前庭で男女が刻苦して働いて居る。種々の色の豆等を莖の上に廣るげて干して居るのもある。淺黄の木綿を織つて居るのもある。光澤のある黄色の絹糸を繰つて居るものもあつた。

二週間許早かつた颯風が東海道は松並木を吹荒した。シンリキシヤが優に通らるゝ道に松の太木は倒れて居るのを、通り道丈鋸で引切つてあつたが猶ほ枝の折が澤山引掛つて居るので、それを下に押付けられぬ位であつた。松並木は最近發明の軍用電線を路傍に引いて居る白衣の技術隊の作業を悲しげに妨げ居る。過去數世紀に渡つて、營業とし生活して居つた、かの松魚を満載して朝仕事から歸る漁夫や、簡単な昔の道具で田畑を耕して居る百姓等の其子孫とは變り方が如何にも激しい（つゞく）